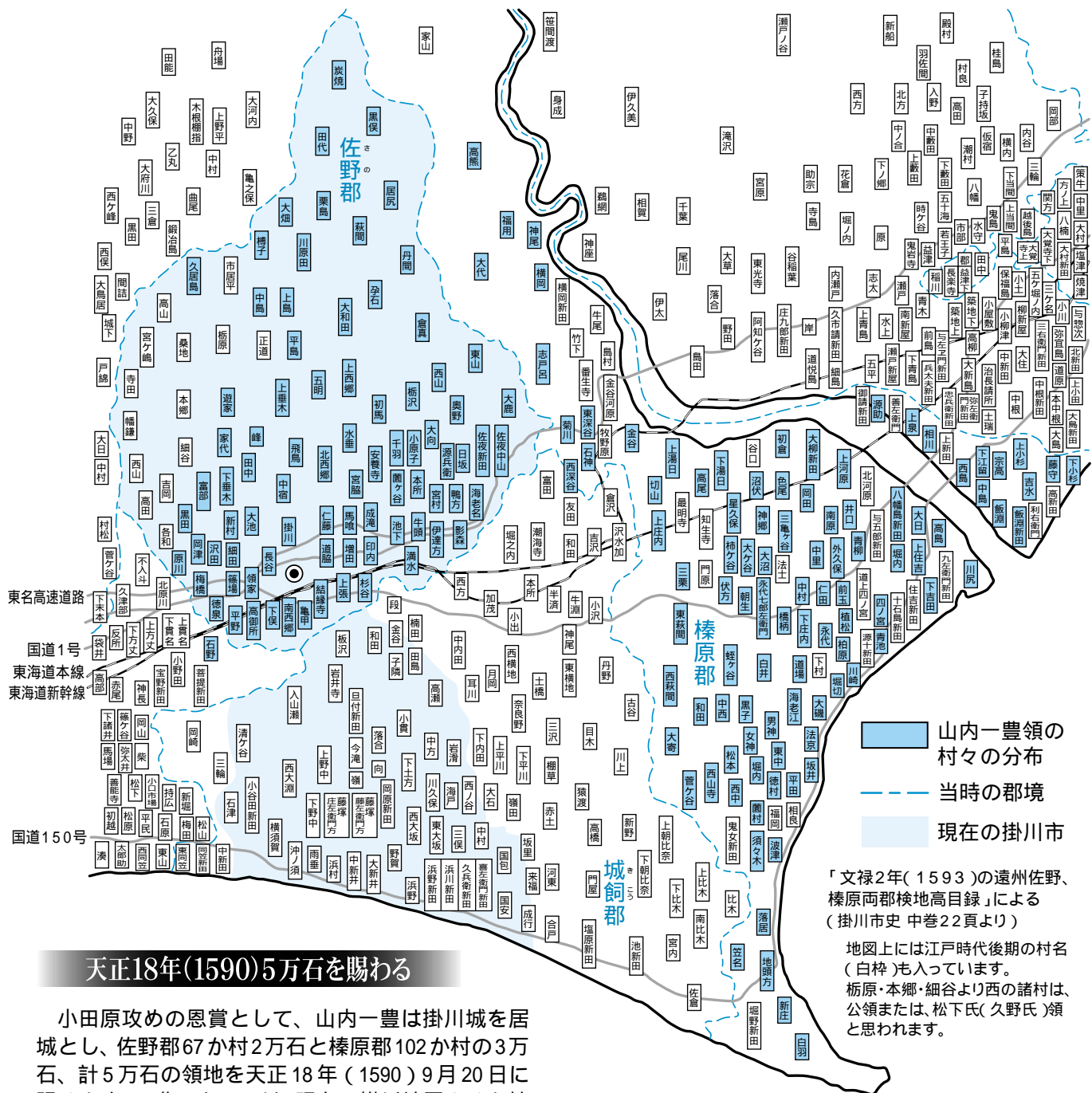


いつの時代も、天下を支配する将軍との関わりが深かった掛川

山内一豊までの掛川の武将たち — 7



「文禄2年(1593)の遠州佐野、榑原両郡検地高目録」による
(掛川市史 中巻22頁より)

地図上には江戸時代後期の村名(白樫)も入っています。榑原・本郷・細谷より西の諸村は、公領または、松下氏(久野氏)領と思われる。

天正18年(1590)5万石を賜わる

小田原攻めの恩賞として、山内一豊は掛川城を居城とし、佐野郡67か村2万石と榑原郡102か村の3万石、計5万石の領地を天正18年(1590)9月20日に賜ります。一豊にとっては、現在の掛川地区よりも榑原地区のお米が収入の柱になっていたようです。また、同年10月25日には、周智郡一宮の1万1千980石を代官職として預かります。その後、伊勢鈴鹿郡に1千石、関白秀次の失脚により8千石が加増され、文禄4年(1595)までに、5万9千石の領地となりました。

着任早々、各所の寺社に安堵寄進を定め、天正18年(1590)12月に仁藤の天然寺へ16俵、天正19年11月に要法寺(現在の袋井市上石野)へ石野村寺領を百石、文禄3年(1594)4月に伊達方の慶雲寺へ屋敷用

地を寄進しています。

一族や家臣にも封地をあてがい、筆頭家老深尾重良には3千石を与え、三の丸(現二の丸)に居住させています。

一豊公ゆかりの地

【掛川市伊達方慶雲寺】
文禄3年(1594)山内一豊より屋敷用地を寄進され、寺には黒印状が保存されています。

